

# はれる家 通信 Vol.3

クリスマス・新年号

2010年12月発行

辻垣建築設計事務所

〒141-0031

東京都品川区西五反田 8-10-14 1F 五反田 206

TEL 03-3492-4245 / E-mail [matsujiigaki@yahoo.co.jp](mailto:matsujiigaki@yahoo.co.jp)

URL <http://tsujiigaki.net/a/>

## MERRY Christmas ♪ & HAPPY NEW YEAR!

皆様、お変わりございませんか。

11月1日から14日までの2週間、パプアニューギニアへ調査旅行に行ってきた。日本から約5000kmの距離にあり、南緯5度ですから熱帯といってよろしいでしょう。水木しげる氏が従軍していたラバウルには4泊しました。景色の美しい所で、ここで激しい戦いがあったとは、とても思えません。



地下壕や赤錆びた沈船や飛行機の残骸を見る時、悲惨な戦争の影を見ることができます。15万人の日本兵が投入され、13万人の兵がなくなったとは。しかも、本土からの補給路を断たれ、戦わずして餓死した兵隊が多かったと聞くと、その無念さはいかばかりであったでしょう。富士山より高い4000m級の尾根を越えて、首都ポートモレスビーを攻撃しようとした訳ですから、ラバウルにあった司令部の無能さには呆れてしまいます。

このラバウルから旅の目的であるマラクル村へ小型飛行機(10人乗り)で1時間半、モーターボートで30分、手付かずの原生林の村へ到着しました。

約1週間の滞在です。毎日各部族を訪ね、村人とミーティングをしました。今回は、メルセス女子修道会のSr.清水靖子氏と中村ふじゑ氏と私の3人、紅2点白1点というところ。この村での特出すべき自然が2つあります。

1つは蛍の樹です。高さ15m位の円錐で地元ではCALAと呼ばれる樹に夕刻ともなると何十、何百万という蛍が集結し、昼間から葉の裏側に留まっているものも含めて、一勢にイルミネーションのように点滅を繰り返すのです。上、下2段に分かれ、上から下へ川の流れのように右側の上から下へ、全体が一勢に点滅するのです。一匹たりとも消し忘れたり、点灯したりしないのが何とも不思議なのです。指揮をしているのだろうかと思うけれども、唯、真の闇がBACKにはある

だけ。「森羅万象」とはこのことだと思います。

1週間、夜の1時過ぎに起き出し泥路斜面を下り、蛍の樹を見上げていました。丁度新月で真っ暗闇。万点の星空をBACKに蛍が恋のシグナルの大饗宴、ご想像下さい。1つ1つの蛍の灯は1等星より輝いていました。

2つ目の驚きは村のはずれにあるスシの泉です。この泉は海に接しており、豊かな原生林が貯えた水を地下水として湧き上がっているのです。6か所以上から湧き出した水量は豊かで、末端は急流となり海へ注いでいます。私は水汲みの係となり、日の出と共に1日に必要な水を汲みに出掛けます。大きな泉は腰くらいの深さがあるのですが、到着する前に子供達が水筒やらペットボトルを取上げしっかり汲んで来てくれます。この水のおいしいこと。そのまま生で飲むのですが、色々なミネラルがうまく入っているのでしょうか日本の女性達の肌は2、3日で輝き出し、最後の方は化粧もしないのにぴかぴかになりました。不思議な水です。この水は海(ジャキノット湾)に入りシュノーケリングで海中を覗いたところ、私の知らない赤や青や緑の珊瑚がびっしりとつまっていました。海と森と泉が一体となると繋がっていると実感です。



問題は、この生態系をサポートしている原生林の森をいつまで守ることができるかです。気候変動コペンハーゲン会議でのCO<sub>2</sub>をお金に換算する議定書。先進国のビジネスとしての森林がこの小さな村でも議論されました。パームヤシやココアの木を植林する代わりに原生林を伐採する、植林するなら全てOKという考え方です。この村の周囲は既にマレーシア企業によって伐採され、伐り尽くされてしまいました。私達もこの木材を過去買いまくり、現在も進行中です。どうしたら森を守ることができるのでしょうか。今回村人の自力によるプロジェクトの支援を約束しましたが、厳しい現況には変わりありません。私達の生活も自覚して目覚めなければ私達の森はなくなるのでしょうか。

辻垣 正彦

## ～私達も社会の一員「オソロク倶楽部」～

レストラン「オソロク倶楽部」で11月LUNCHをしました。このレストランは2008年に竣工した**障害者就労支援施設**です。千葉県印西市にある木造建築物です。障害者が30名通って来て、社会へ飛び立つための訓練をしている所です。ここに附随しているレストランは八角錐の空間で、パスタ、ピザが主なメニューで、焼き窯があり本格的な味が楽しめます。障害者が社会に打って出てサービスするところが抜群で、サービスされる立場からする立場になる。甘えることなく自立しようとしているからこそ、味わい深いものがあります。杉の木立に囲まれた環境は空気も新鮮です。グルメという前にまず、その空気と水が前提として必要なのではないでしょうか。

隣接して**パン工房**があります。色々な種類のパンがあり、見ているだけで楽しくなります。クッキーも地粉を使ったとろけるような食感です。私はいつも小倉アンパンとクリームパンとクッキーを買います。壁面には絵も飾られ、ギャラリーも兼ねています。(即売もされています。) 地元の山武杉で構成された木造建築で、下地にも合板は一切使わず、全て国産杉・桧の無垢材と漆喰を使用しています。空気がおいしいのはこの素材によるところも大きいでしょう。



レストラン棟 外観



レストラン全景



レストラン



パン販売所

1999年には東隣に「いんば学舎・草深」(社会福祉法人 印旛福祉会)が竣工しており、2棟が対を成し、この地域の景観を創り始めています。これらの施設を経営しているのは社会福祉法人 印旛福祉会で、理事長は菊地龍彦氏です。カトリック信徒でもあり、私と共有点もあります。情熱家で、土の香りのする、歌大好き人間です。「カンボジアの子供の人権を考える会」(カンボジアの子供達の日常生活と教育を保証する目的で設立)にも携わっておられ、国際的活動家ともいえます。

これらの施設に続き唯今、知的障害者入所更生施設「ケアホーム印旛」を建築中です。

## ～進行中の建物のご紹介～

### 「ケアホーム印旛 新築工事」



上棟時全景

左:A棟、右:B棟

建築場所:千葉県印西市吉高

床面積:A棟217㎡(7人)・B棟164㎡(5人)

施工:岩澤建設株式会社(2011年3月完成予定)

2棟とも独立し、5人と7人の計12人の住まいとなります。いつものように大工さんの手刻みで地元の材を主体としています。大きな塔が道行く人々の絶好の目印となるでしょう。

来年は印西市に重度重複障害車椅子を使用する人々の施設の計画が始まる予定です。私共も設計でサポートさせていただきます。

## ～建築設計の楽しみ～

Vol.2では設計の外部について書きましたが、今回は内部について。建物に住まわれるご夫妻 or 親子の家に対する考え方が細かい打合せをすればする程違う事があります。お互いこんなはずではなかったと思ったり、いやもう少し話し合えば結論は同じ物を求めているのだとか。一緒に住まわれる方々が心休まる楽しい生活を送れる住居を建てるのが私達の仕事です。出来るだけ意見を出し合い、家造りを楽しもう!ぶつかる事ばかりでなく、相手の事を思いやり、ここには御主人(奥様)が大切にしている絵を飾りますので、絵が映える様な空間にと、又動物を可愛がっていらっしゃる方々は、あまり動物の知識のない私にいろいろなアイデアを出してください。私が関わっている方々だけでもこんなに考え、感じ方が各々違うのです。人間とはすばらしい!

話は違って、小さい子供がいて床に物をこぼしてしまい汚すので掃除のしやすい床にして下さいという注文が多いのですが、無垢の木を使って(軽く木を保護する自然素材のクリアー塗料を塗っておきます)と、子供も木の優しさが分かるのでしょね。寝ころんだりして床に対して優しく接します。もし傷がついても、無垢材はその家の歴史を包み込む様にわからなくしてくれます。色々な御家族と付き合わせていただき感謝致します。 辻垣 淑子

## 「葉山の民家 改修工事」

建築場所：神奈川県三浦郡葉山町  
 床面積：1階 79.91㎡（一部増築9.93㎡含）  
 2階 17.80㎡  
 竣工：2010年5月  
 施工：(有)エスエス（藤沢市西俣野）

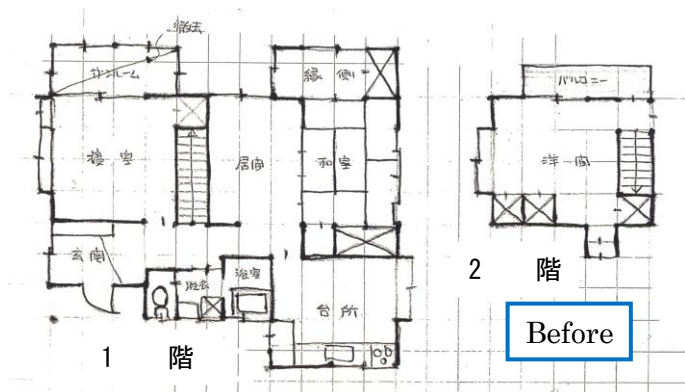
### ～建て主からのお便り～

ハチドリの一滴の話が好きである。一瞬で世界を激変させることはできないけれど、日々の営みの中で子育てを通して地球は変わってゆくと信じている。だからこの家もたくさんのゴミが出る新築ではなく、使えるものは使うリフォームをお願いした。何をかうか、何をかうか等、一つの選択は未来の選択であるように思う。アレルギーの次女のためにも身体に悪影響なものは一切使わない家を先生にお願いした。元々鉛筆は手で削るタイプなので、レバーでなく手でひねる蛇口であるとか、便利さを追求して作られたものより、不便さを頭や手を使って快適に変える楽しみが好きだとお伝えしたところ、辻垣先生は「いいねえ」と押し下さり、いい意味で便利度の低い家が完成した。

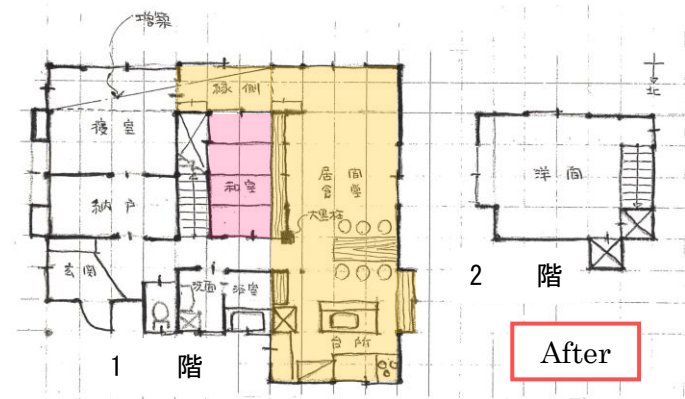
築40年の中古物件は無垢の杉の天井、桧の床、桜花園の古い建具と新しい水回りの設備で生まれ変わった。夏は風通しがとても良く、山からか海からか、涼しい風が家中をかけめぐるのでクーラーは要らなかった。

長女にこの家のお気に入りを探ねると、家族で漆喰を塗って仕上げた壁と、向こう側が歪んで見える猫間障子だと言う。次女は家族の中で一番この床の心地よさを体感していて、とにかくゴロゴロする。この桧の床は、床暖房など入っていないのに、ほんのりと温もりを感じ、あたりが柔らかだ。夏は親子でも大の字になってよく昼寝をして、本当に気持ち良かった。

私の名前はインドネシア語で「木」という意味を持つと偶然知った。だからという訳ではないが、木がおかしな加工をされず、呼吸しているのを感じられると安らぐ。我が家の客人は皆つい長居となる。夜もよく



和室とつながる居間が中心のプラン。水回りも全て一新。玄関～納戸～寝室～縁側～居間と家の中をぐるりと一周できる。



眠れる。ちょっとした森なのだ。辻垣先生と家のプランを練り上げる時間をものづくりの一員になれたようでとても楽しめた。特に藤沢のご自宅での打合せでは、畳の一室をどこにするかで淑子さんのアイデアからスルスルと話が発展し、その和室をご自宅のように小上がりにして、スポットライトを仕込み、障子を幕に見立てて小舞台としようと思った時の興奮はまだ鮮明である。夏至や冬至にキャンドルナイトでこのステージで朗読会をしようと計画途中である。この和室の周りにはグルッと回廊できるようになっていて、子供達はエンドレスに追っかけっこが楽しめる。自らが生まれる前の宇宙での星めぐりを無意識にたどっているようだ。ライトアップされるより、夕焼けに黒く映える樹が、空気清浄機より花や雨の匂いのする風がどれほど慰めと力を与えてくれることか。そうしたホントウノタバモノを子供達とこの家で育てる幸せをかみしめている。

難波 佳由



南庭の緑と和室とつながった広い居間  
梁を現し天井を高くした。天井は杉板張



寝室へ続く縁側廊下は  
子供の昼寝スペース



古建具に囲まれた和室  
建具は桜花園にて購入



居間より北側キッチンを見る  
家中全てオープンな舞台

～「合葬の園」森の中の納骨堂～

はれる家通信 vol.1 にてご紹介しました「合葬の園」が完成しました。ご興味のある方はご連絡下さい。



建築場所: 神奈川県藤沢市 施工: (株)門倉組(藤沢市)  
床面積: 98.17㎡ 構造: RC造(一部鉄骨造)

コンクリート造でありながら外壁に杉板を張ることで、緑豊かな敷地に溶け込みました。扉を開けると木の香りと漆喰壁のやわらかさに迎えられ、聖堂はトップライトからの光が差し祈りの時を過ごすことできる落ち着いた空間となりました。



木製(桧づくり)の納骨ロッカー  
静岡県天竜森林組合 製作

十字架、祭壇は敷地内伐採樹にて作製

土の中みみずも蟬も塵芥虫も  
同居して待つ苦界の春を

我が庭のうなぶかす花土佐水木  
幽けき黄色龍馬も観しや



パプアニューギニア  
ジャキノット湾にて

辻垣正彦のスケッチノートより

～進行中の建物のご紹介～

「千倉の家 再生工事」

建築場所: 千葉県南房総市千倉町  
床面積: 1階 93㎡ (既存母屋別棟含まず)  
施工: 高木建設 (千葉県南房総市千倉町)

この家は明治の頃より住み継がれてきた民家を現代に再生するものです。黒々とした大梁を解体し、再利用しています。小屋裏に残された棟札より150年近く前の建築と判明しました。工事に携わる大工さんも昔の大工の考えていたことや技術を楽しんでいらっしゃるようです。現代の大工さんも手刻みで構造を組み上げました。尚100年後も生き続ける家を目指して。



大梁を活用するよう設計  
今も生き続けている古材



発見された棟札には  
明治10年3月

建築に対するご相談は、いつでも受付けております。お気軽にご相談ください。

～2010年パプアの森は今～

「[パプアニューギニアとソロモン諸島を守る会](#)」の報告会を2011年1月15日(土)14時より四谷のニコラバレ修道院1階集会場で開催します。

今年の調査の報告を冒頭文よりも詳しくお伝えしますので、是非おいで下さい。参加費1000円。

詳細などはお気軽にお問合せ下さい。

ニコラ・バレ修道院: 東京都千代田区六番町14-4  
JR四谷駅 麴町口より徒歩3分 (TEL:03-3261-0825)

～編集後記～

はれる家通信 Vol.3 を最後まで拝読いただき、ありがとうございます。今回で3号目となりましたが、毎回編集の内容が変わり、編集者の性格が表れているようですが、いかがでしたでしょうか。自然界にも何一つとして変化せず留まれるものはない…!!ということ、御容赦下さい。今後も様々なご意見・ご感想を頂けると幸いです。

坂口 奈津紀

短歌のひとつとき  
辻垣 正彦